



高校生のドローン飛行体験会

【本部】



建設業界のDX・ICTやドローンについての座学

令和6年5月2日、建設業のICT技術やドローン操縦の体験を通じて、高校生に建設業の新しい側面を知ってもらい興味を持ってもらうよう、栃木県立小山北桜高等学校にてドローン飛行体験会を開催いたしました。

まず、座学の時間では、建設業界のDX・ICT、ドローンに関する基礎知識を学び、建設業の先進技術や取り組みについての理解を深めていただきました。その後、体育館内での実習では、実際にドローンを操縦し、飛行や撮影の基本的な操作方法を学びました。



体育館内にて、DJI社のPhantom4を操縦

今年で3年目を迎えたところであり、この体験会を通じて、生徒の方々には、建設業界におけるドローンの活用方法や可能性について具体的なイメージを持つことができたのではないかと思います。

建設業界が進化し続けていることや、ICT技術やドローンなどが建設現場でどのように活用されているのかを学ぶことで興味が高まり、将来の担い手となる人材が増えていくよう、引き続き、体験会を続けてまいります。

大規模災害時の合同情報訓練

【本部】



谷黒会長と荒井技術委員長による応援体制の確認

令和6年6月5日、大規模災害時への対応を行うべく、栃木県、国土交通省関東地方整備局、防衛省、栃木県建設業協会、那須烏山市、建設コンサルタンツ協会が参加した「合同情報伝達訓練」を行いました。

平成25年から実施している訓練で、今回は令和6年能登半島地震等の事象を参考に、栃木県内で最大震度7を記録したことを想定。那須烏山市において甚大な災害が発生し、3つの事象を想定した情報伝達訓練を行いました。

訓練は、Webオンラインシステムを使用した情報伝達により行われ、今後も被害情報の増大が予想され、その対応に万全を期すため、栃木県県土整備部長から応援要請を受けた本会の谷黒会長が烏山支部の岡支部長に体制を確認をするもので、訓練では本会が独自に開発した「道路・河川等管理情報システム」を使用いたしました。



烏山支部員がドローンを飛行させ、Webオンラインを使用しリアルタイムに映像配信

また、一級河川荒川的那須烏山市高瀬大橋上流で、大規模な斜面崩壊による河道埋塞が発生し、上流部で湛水が発生しているとの情報提供を市民から受け、烏山支部員がドローンを飛行させWebオンラインシステムを使用し現地状況をリアルタイムで映像配信するなど、関係機関との連携を密にした実践的な訓練を行いました。



Topics

お子様から大人まで建築・建設のお仕事を 楽しく知るイベント ～みやJOYけんちく博開催～

【宇都宮支部】



宇都宮建設業協会(菊池三紀男会長)は栃木県建築士会(柴田道夫会長)ならびに栃木県建築士事務所協会(山崎良知会長)との共催で、令和6年3月24日にライトキューブ宇都宮において「みやJOY2024けんちく博」を開催しました。「みやJOY2024けんちく博」は今年が初めての開催でしたが、約7,000人が来場し、小さな子供から大人まで幅広い年代の方々いろいろな体験を楽しんでいただきました。

「みやJOY2024けんちく博」は『建築ってカッコイイ!!』をテーマに来場者に楽しい体験をとおして、建築への興味・関心を高めてもらうことが最大の目的。当日は①設計②建設③企業④作品展示の4ブースのほか、おかしにくいコーナーで構成。設計ブースでは、ミニドローン操縦体験や理想の街を創る「LRTがあるまちづくり」、VR空間での宝探し「アーキトレジャーおたからGo」、部屋のレイアウトを考える「ちよこっとプランニング」を実施。建設ブースでは実際に木材を組み立てて家を作る「とんとんおうちへGO」、左官、塗装、木工などの職人体験、高所作業車やバックホーなどの重機搭乗体験を実施。設計から建設まで建築のすべてを学ぶことができるようなコンセプトとなっていました。

参加者からは大変好評で、次年度以降の継続的な開催を望む声が多く寄せられていました。



(岩原産業(株) 岩原正樹)

《知ろう!見よう!考えよう!けんせつのお仕事》

総合学習支援活動

【鹿沼支部】



令和6年1月19日、栃木県建設業協会鹿沼支部青年の会は、鹿沼土木事務所の協力のもと鹿沼市立菊沢東小学校6年生50名を対象とした総合学習支援活動を実施しました。鹿沼支部からは支部長を始め17名が参加し、鹿沼土木事務所からは所長ほか8名が参加しました。『知ろう!見よう!考えよう!けんせつのお仕事』をテーマに掲げ、児童たちを施工中の工事現場に招き、建設業の魅力や役割りについて学んでもらいました。普段は経験のすることのできない橋脚部コンクリートを見て触りながら記念に絵を作成、防草コンクリートのフレッシュコンクリートへの鏝均し体験をし記念に手形製作、高所作業車・バックホー・ロードローラーへの搭乗体験。小型バックホーでの掘削作業体験、ロードローラーでの締め固め作業を空き缶潰しをしながら経験してもらいました。天候に恵まれ雲一つない晴天の下、児童たちのキラキラした笑顔と楽しそうな声がかきまする中、本体験学習を通して建設業の仕事について学んでいただきました。



児童たちからも「建設業の魅力を肌で感じた。とても貴重な体験ができた。建設業のイメージが変わった」とのとても嬉しい声を多数いただきました。このような活動を通して将来の進路の選択肢の一つとして建設業に携わってもらえればと思います。鹿沼土木事務所様のご協力に感謝いたします。

(株)中津工業 飯野敦司



日光土木事務所と日光支部 若手・女性技術者による意見交換

【日光支部】



意見交換

日光土木事務所と日光支部青年の会は3月6日に、「第2回若手及び女性技術者による意見交換会」を実施しました。両者から若手、女性技術者25人が参加し、今後必須となるBIM/SIMについて推進していく核となる若手技術者を中心に取り組む必要性を理解し、学ぶ機会を提供しました。

青年の会の山田副会長は「今回の体験では現場で3D図面やARも見られるようにしたので、これからの現場がどう変わっていくのか、確認・立会のあり方など含めて考えていきたい」と話しました。

日光土木事務所前の河川敷で杭ナビとフィールドテラスという現場計測アプリを連動させて、班ごとに測量から丁張まで実施しました。前日の雪と降雨の中での体験となりましたが現場でタブレットをかざすとすぐにARを見ることができ、動かせば全体も把握できて画期的でした。



杭ナビの活用実地説明

丁張体験

意見交換では、「地域特性がカバーできれば遠隔現場がもっと進んでいく」「紙と電子特性を踏まえて使い分けるべき」「チャットなど気軽にやり取りできるツールがあるとコミュニケーションがとりやすい」などの意見が上がりました。若手・女性技術職員らによる意見交換会は、現場での円滑な情報交換などを行えるよう開催しており、今後も定期的に開催していきたいと考えています。

(齊藤建設(株) 齊藤一明)

芳賀建設会館新築事業

【芳賀支部】



当会館は築43年以上が経過したことから老朽化が著しく、支部員・職員増及びIT化に伴い手狭となり、通常の使用にも支障をきたしておりました。また、東日本大震災で経験したとおり耐震性に劣り、地震等による被災の可能性が高く、地域の守り手である対策本部の設置場所としては不適な状況でありました。そこで、令和3年度から建替え計画について検討を開始し、会員との合意形成を図りながら建築設計を決定し、令和5年10月17日に地鎮祭を催行し工着手の運びとなりました。

現在、当支部会員である剋真建設株式会社様の施工により、工事は順調に進行しており、令和6年8月に落成式及び旧会館からの引越しを行い、11月には外構等が完成し、竣工式を行う予定であります。



また、当支部は大正14年(1925年)に協会の前身である「土木請負業組合」の初代芳賀支部長に坂本勝造氏が就任してから来年1月で100年になることから、12月14日(土)に創立100周年記念式典を開催いたします。

お陰様をもちまして新しい芳賀建設会館で100周年を迎えられそうです。本部、各支部及び関係機関の皆様には今後とも、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

(新会館建設委員会 副委員長 河原恵治)



豚熱防疫措置に取り組む

【下都賀支部】



令和6年2月16日に栃木市の養豚場で豚熱の感染が確認され、栃木県との「家畜伝染病の発生時における防疫対策への協力に関する協定書」に基づき、下都賀支部をあげて早朝から2班体制で埋却作業を行うことで感染拡大を防ぎ、地域の安全確保に全力で取り組むこととなりました。

発生直後、下都賀支部対策委員会を設置し、埋却農場の現地調査及び重機による試掘調査を実施、その調査の結果をもとに必要な重機、資材、人員配置を県と協議しました。



作業にあたっては、防疫拠点に集合して現地までバスで移動し、その移動中に従事するための安全対策教育を実施、到着後、慣れない防護服を着用しての作業で、13時間2班体制で埋却作業を実施しました。

今回の防疫対策にあたっては、防疫拠点・消毒ポイントとして施設を利用、送迎等の車両など多くの関係各所の協力のなかで14日間という短期間で防疫措置が完了しました。

今回のことで国内の伝染病に対する防疫対策への意識の高さ、そしてそのことが国民の安全を守っているんだと感じる出来事でした。

(有)磯工務店 渡邊和徳

水防及び地震情報伝達 合同訓練

(道路河川管理情報システム・現場応急対策)

【塩谷支部】



塩谷支部対策本部情報確認

令和6年6月13日、塩谷支部は水防及び地震情報伝達訓練を実施しました。

塩谷支部、矢板土木事務所、矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町、初参加の建設コンサルタンツ協会会員も含め合同訓練に約60人が参加し道路・河川等管理情報システムを使ったりリモートでの情報共有による災害対応の連携を各対策本部、各現場で災害対応強化を図りました。



堤防浸食防止シート張り工法による応急処置状況

水防訓練では、大雨の影響による大規模斜面崩壊が発生しており、山林斜面崩壊による河道閉塞の恐れがあると想定。現場班は、本部指示により重機で堆積した崩落土砂を除去し、堤防浸食防止のためシート張り工法にて応急処置を実践しました。地震訓練では、高根沢町において震度5弱の内陸型直下型地震が発生したと想定。橋梁部の異常箇所ありと報告があり、土木対策本部からの指示により建設コンサルタンツ協会の調査員が現地に向かい、橋梁破損箇所の緊急点検を行いました。訓練により自然災害にいつでも対応できるように県、4市町、各協会が連携を行い、地域の守り手として防災活動に今後も力を発揮できるよう努力していきたいと思ひます。

現場班は、本部指示により重機で堆積した崩落土砂を除去し、堤防浸食防止のためシート張り工法にて応急処置を実践しました。地震訓練では、高根沢町において震度5弱の内陸型直下型地震が発生したと想定。橋梁部の異常箇所ありと報告があり、土木対策本部からの指示により建設コンサルタンツ協会の調査員が現地に向かい、橋梁破損箇所の緊急点検を行いました。訓練により自然災害にいつでも対応できるように県、4市町、各協会が連携を行い、地域の守り手として防災活動に今後も力を発揮できるよう努力していきたいと思ひます。

(友建工業(株) 小菅秀樹)



創立 75 周年記念講演会

【那須支部】



75 周年記念講演会



原 辰徳氏

令和 6 年 4 月 19 日に那須野が原ハーモニーホールにて那須支部創立 75 周年記念事業として元読売巨人軍の原辰徳氏をお迎えし、「野球と私」を演題に記念講演会を開催いたしました。

協会関係者並びに関係機関の皆様方、また式典・記念誌発行にご協賛をいただきました企業様、約 300 名のご参加をいただき、盛大に開催することができました。

那須支部の活動理念である「信頼・技術・感謝」は、技術があって信頼が得られ、日々感謝の心を忘れることなく精進することが、野球にも我々の仕事にも通じるものがあると考えています。

今後も 100 年先を見据え、「地域の守り手」「地域の創り手」として、活動理念を忘れることなく地域の皆様のご期待に応えられる経営を目指していきたいと思いをします。



準備委員会メンバーと

記念事業にご参加いただきました皆様、ご協賛をいただきました企業様、75 周年記念事業準備委員会の皆様、役員各位にあらためまして感謝申し上げます。

(マルホ建設(株) 星 豪紀)

南摩ダム現場見学会 〈受発注者合同〉

【烏山支部】



仲良くパチリ 烏山支部員と烏山土木事務所職員

令和 6 年 2 月 29 日、烏山支部は本体工事真つ只中の南摩ダム建設工事現場を水資源機構 思川開発建設所様のご協力のもと、見学させていただきました。

今回の見学会は、烏山土木事務所からお声かけがあり実現したもので、当日は 30 名の技術者が合同で工事関係者の説明に耳を傾けました。



支部員も普段から ICT 施工など多様な現場に触れる機会がありますが、このようなスケールの大きい現場は経験が少なく、大規模建設を肌で感じ取れる良い機会となりました。

また、見学会開催に先立ち、烏山土木事務所の大塚次長から

挨拶をいただくとともに、土木事務所職員と同じ時間、同じ現場を共有することができ、デスク上での意見交換会とは違った意思疎通を図ることができました。

私どもは、このような機会を生かし、今後も安全な現場、工物品質・生産性の高い現場を目指し、受発注者間で理解を深め合いながら建設工事等を進めてまいります。

(株)荒川建設 中山靖之



排水ポンプ車操作訓練

【安蘇支部】



令和6年5月21日に佐野市秋山川、葛生大橋上流にて安足土木事務所、わたらせ建設業協同組合、安蘇建設業協同組合合同で排水ポンプ車操作訓練を行いました。この訓練は年1回行っており今後頻発・激甚化する豪雨災害に対応すべく、機動力を生かし浸水被害の解消を迅速に行うためのものです。排水ポンプ車には人力で持ち運べる小型の特殊ポンプを搭載しており、その性能は30m³/min(25mプールを約20分で排水可能)、排水距離50m(ポンプ1台あたり)、排水可能水深0.1m以上、車両総重量8,000kg以下(中型運転免許で運転可能)となっています。訓練では安足土木事務所と各協同組合との情報伝達、排水ポンプ車の設置、展開、操作訓練、排水を行いました。



(岡田土建(株) 石澤洋幸)

水防演習

【足利支部】



令和6年度 水防訓練

足利市水防演習が令和6年5月19日に実施されました。2年ぶりとなるこの演習には、市内消防団19個分団から114名をはじめ、消防本部や自主防災組織連絡協議会、国や県等関係機関、足利市建設業協会から総勢326名が参加しました。



令和元年東日本台風の際には、渡良瀬川の増水に伴い中橋周辺において初めて水防活動を実施したことから、この訓練では、我々もこの水防活動を想定した大型土のうの設置訓練を実施しました。その他、市の広報・物資運送給水活動、消防団による堤防巡視活動、ドローンや県消防防災ヘリでの偵察訓練など、約1時間半にも及ぶ演習は、本番さながらに行われ、日頃の訓練成果を見ることができました。

昨今、異常気象に伴う風水害等が頻発・激甚化している中であって、建設業界は、「地域の守り手」としての社会的使命を担っているところであり、その使命を全うするためには、会員の皆様と様々な活動を積極的かつ活発に展開しながら、建設業界のさらなる発展を目指していかなければならないと意を強くしました。

昨今、異常気象に伴う風水害等が頻発・激甚化している中であって、建設業界は、「地域の守り手」としての社会的使命を担っているところであり、その使命を全うするためには、会員の皆様と様々な活動を積極的かつ活発に展開しながら、建設業界のさらなる発展を目指していかなければならないと意を強くしました。

(三興工業(株) 山根良樹)